

《短報》

山口県内の希少微小貝2種—キバサナギガイ、ヤマトキバサナギガイ—

増野和幸

豊田ホタルの里ミュージアム, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

はじめに

山口県内には数多くの微小陸貝が生息する。しかし、採集されてもその記録が残されていないことが多く、生息の実態を把握する場合に困難を要する。採集したサンプルを正しく同定し、公の文献に記録として残しておくことが必要である。今回、採集個体数は少ないが、希少種を得たのでここに報告する。標本は、保存のために豊田ホタルの里ミュージアムに収める。

1. キバサナギガイ *Vertigo hirasei* Pilsbry, 1901

キバサナギガイ科 *Vertiginidae* に属する殻径 1 mm, 殻高 1.4 mm ほどの微小貝。丸みの強い楕円形(蛹形)で、殻は薄く、茶褐色で縫合は浅く、殻表にはごく弱い成長線が見られるものの、ほぼ平滑で鈍い光沢がある。臍孔は狭いが開く。殻口は弱く反曲する。成貝の殻口内には4本の歯状突起が見られ、外唇内側に2本のプリカ、内唇上部に1歯、軸唇に1歯がある。北海道から沖縄まで分布するが、生息地は局限的で個体数も少ない。

筆者の手元にある県内の過去の記録では、中村康博氏(故人, 宇部市)が、下関市豊北町角島夢ヶ崎において、1998年2月11日採集している。この標本は実検していないが、山口県RDB(2003)作成のために、氏から寄せられたものである。しかし、サナギガイ *Pupilla (Gibbulinopsis) cryptodon* (Heude, 1880)(サナギガイ科: *Pupillidae*)の殻形態と分布に関して詳細に検討した山下・福田(1996)に拠れば、豊北町夢ヶ崎にはサナギガイのみが多数生息していることは記録されているが、当地でのキバサナギガイの生息には全く触れられていない。当地にはキバサナギガイは生息していないと考えられる。したがって、中村氏の記録はサナギガイである可能性が大きい。

今回報告する個体は、産地、周防大島町(旧大島町)小松飯ノ山(263 m)の中腹(標高150 m付近)。登山

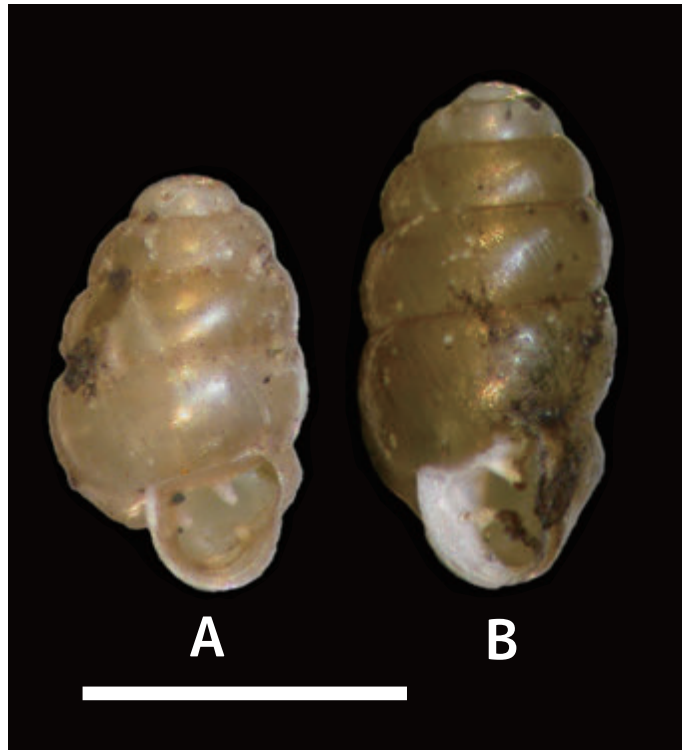


図1. 希少微小陸産貝のキバサナギガイとヤマトキバサナギガイ
A: キバサナギガイ(周防大島町小松飯ノ山); B: ヤマトキバサナギガイ(山口市阿東吉部野下)
※Scale bar: 1 mm.

道に沿った雑木林の林床落葉中から得た、1 個体 (2017 年 8 月 8 日調査) である。生息環境はトベラ、ツワブキなど海浜性の植物が繁茂しており、矢野 (2019) が指摘しているように、本種が海岸性であることと符合している。

今回の採集個体は 1 個体で死殻であり、記録標本としては極めて少ないので、今後、当地を含め県内各地の調査において本種の発見に努めたい。

2. ヤマトキバサナギガイ *Vertigo japonica* Pilsbry & Y. Hirase, 1904

キバサナギガイ科 *Vertiginidae* に属する殻径 1.4 mm, 殻高 1.8 mm ほどの微小貝。やや長い楕円形 (蛹形) で、殻は薄く、茶褐色で縫合はやや深く、殻表には弱い (キバサナギガイに比較して粗い) 成長線が見られ、ほぼ平滑で鈍い光沢がある。臍孔はわずかに開く。成貝の殻口内には 4 本の歯状突起が見られ、外唇内側に 2 本、内唇に 1 本、軸唇に 1 本が位置する。北海道から九州にかけて広く分布するが、生息地は局所的で個体数も少ない。

過去には岡藤五郎氏による、美祢市からの記録がある。氏が秋吉台洞窟内の堆積物を調査した中に含まれていたものである。岡藤 (1957) に拠れば、採集地は美祢市大嶺町コジキ洞。1957 年 4 月 29 日, 6 月 13 日, 7 月 15 日調査。洞および付近から 36 属 52 種を記録している。採集物の整理・同定の指導は黒田徳米氏 (当時京都大学教授) より受けたと記している。また、岡藤の採集した標本類は、現在、美祢市歴史民俗資料館に保管されているが、本種の標本は実検していない。推測するに、洞窟内の堆積土中からの標本であり、半化石化したものだと考えられる。

さて、今回報告する個体は、山口市阿東嘉年下須賀社付近の林床落葉中からのもので、1 個体を得た。2016 年 5 月 27 日調査。採集地は山麓に位置する神社叢 (社叢は貧弱) の林床落葉下である。付近には農家が散在し、水田が広がっている。生息環境から言えば、矢野 (2019) が指摘しているように内陸部の林縁である。

今回の採集個体は 1 個体であるが、県内初の記録として貴重である。今後、微小種の調査において注目したい。

おわりに

今回報告した微小種の採集においては、林床の落葉を含む堆積土の採取にシフター (口径約 32 cm, 全長約 96 cm) を使用した。微小貝の採集には非常に有効であることを記しておく。

最後に、今回の種の同定は矢野重文氏 (日本貝類学会評議員) にお願ひした。記して感謝の意を表す。

参考文献

愛知県環境部自然保護課 (2020) レッドデータブックあいち 2020 貝類 (Web 版). kankyojoho.prep.aichi.jp/redlist01/search01.aspx

東 正雄 (1995) 原色日本陸産貝類図鑑 (増補改訂版). xvi+343pp.+80pls. 保育社. 大阪.

川瀬基弘・市原 俊 (2016) 愛知県初記録のヤマトキバサナギガイ. *かきつばた*, (41): 17-18.

岡藤五郎 (1957) 山口県秋吉台洞窟およびその附近の貝類について (予報). *貝類学雑誌*, **19**(3・4): 197-205.

矢野重文 (2019) キバサナギガイ属の分類について. *まいご*, (26): 18-22., 四国貝類談話会.

山下博由・福田 宏 (1996) サナギガイの殻形態と分布 (腹足綱: 柄眼目: サナギガイ科